

● 国や自治体は、事例を汲み上げ、職場の取組の後押しを

昨今の若い世代は、率先して家事や育児をやる傾向にあると聞きます。しかしながら、職場ではそうした声になかなか表に出てきません。国は号令をかけるだけでなく、地方自治体はその問題に正面から取り組み、これからの将来を担う 20 代・30 代を支援するための重要施策と位置づけるべきだと感じています。残念なことに、現状ではそうした声が届く手段が極めて少なく、その声を抹殺するような環境や状況があるのも事実だと思います。こうした状況を改善するための起爆剤となるよう、事例をうまく汲み上げ、良い方向に誘導していただきたいと考えています。

1-09

「育児休業取得に伴う現状課題」

匿名

- ①公務員
- ④2か月間

● 頼れる職員の存在と心強い職場の支援

ただ一つ気がかりだったのは、管理者である私が長期の休みを取った場合、職場であるグループホームの職員にかかる負担や、私が不在となる期間の管理業務等について職員が対応していけるかでした。このことを人事部長に相談したところ、「不在となる期間については、人員の支援をするので安心してほしい」との回答がありました。また、育児休業を取得したい旨を職場の職員に相談したところ、「何かあった時には電話連絡をして指示を仰ぐので、安心して奥さんを休ませてあげてください」と快く送り出してくれました。

1-12

「育児休業を取得して初めて見えた世界」

田中慎吾さん

- ①介護支援専門員・管理者
- ③30代前半
- ④1週間

● 自分の育休がまわりの人に影響を与え、よい方向に

育児休業中に会った職場の人からは、「育児休業を誰かが取得してくれないと、なかなか取りづらいついていたんだよ」とか、別の人からは、「育児休業を取得してみようと思っている人がいるみたいだよ」といった話を聞きました。実際に男性が育児休業を取得したという自分の行動がまわりの人に影響を与え、よい方向へ向かっていることを嬉しく思いました。

1-13

「育児休業を経験して感じたこと」

田中知博さん

- ①公務員
- ②1,000～4,999人
- ③30代前半
- ④3か月間

● 社会全体で父親が育児に参加しやすい環境が必要

一方で、父親が育児に参加しにくい環境があることも感じた。妊婦検診には父親は仕事を休みづらいため同伴が難しく、たとえ同伴しても診察室に同席しにくい雰囲気があるのも事実である。また産後の集団育児指導のほとんどは母親向けである。母乳を通しての繋がりも母親のみの恩恵であり、その上父親の仕事が多忙で赤ちゃんと過ごす時間が少ないと、育児の駆け出しの大部分は母親が担うことになる。そうしているうちに、いつの間にか「育児は母親、仕事は父親」のような性別分業ができあがるのかもしれないと思った。

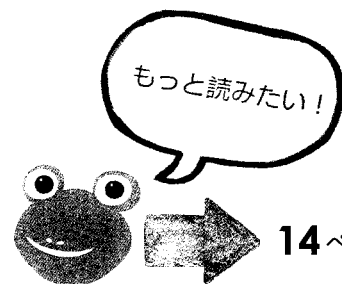
社会全体として父親が育児に参加しやすい環境を作って欲しいと切に願う。男性の育児休業を積極的に奨励し、妊婦検診の同伴や出産の立会い、出産後数日の育児休業などは誰もが取れるようになって欲しい。また医療者側も、妊娠中から父親の参加をもっと促し、「母親学級」から「両親学級」へと名実と共に変更し、産後は父親が長時間滞在しやすい母児同室の部屋などアメニティの工夫も検討していただきたい。

4-05

「育児休業に感謝！」

大塚亮平さん

- ①医師
- ②100～299人
- ③20代後半
- ④1か月間



2 育休取得は工夫次第

一見、敷居が高い育児休業も、工夫次第で取れるように。また職場が育児休業を快く受け入れるための秘訣とは？

先輩育休
パパから

- 早めに育児休業取得の意向を職場に伝えることで、職場も対応しやすく
- 職場では、職員の育児休業を機に仕事のやり方を見直すなど柔軟な対応をとる
- 育児休業中のことを考えて、計画的に仕事を進めたり、情報の共有化を図る
また職場のことを考えた仕事ぶりは、職場が育児休業を快く受け入れることにつながる
- 会社の制度を活用したり、育児休業を大型連休につなげるなどにより、取得しやすく
- 子育ての先輩である両親にもよく説明することが鍵。育児休業中も手助けが得られやすく
- 育児休業を取るんだ！という本人の意思がなければ、何も始まらない

● 仕事の流れや順番の見直しなど職場が体制づくり

上司や同僚には、妻の妊娠がわかった時点から、飲み会の席などで育児休業をとりたいと思う旨を伝えていました。最初は周りも「冗談かな」と思っていたかもしれませんが。正式に取得したい旨を伝えると、仕事の流れや順番など、仕事への影響が最小限になるように、検討をしていただきました。上司や同僚には大変感謝しています。このように職場での協力が得られたことも育児休業取得を決断する大きな一因となりました。

2-01

「私を変えた育児休業！ありがとう！！」

大牟田直人さん

- ①会社員
- ②5,000人～
- ③30代後半
- ④1か月間

● 早めに相談することで、職場も体制整備が可能に

二人目の子が授かったことが分かった時、私は直ぐに上司に相談し、妻の産後休暇の時期に重ねて育児休業を取得したいと伝えました。当時の上司は理解のある方で、快諾してくれた上、仕事と育児休業のバランスに配慮して係を異動させてくれました。また、異動先でもベテラン職員の方々を中心となって、育児休業中の私の仕事を分担して引き受けてくれました。このような職場の支援があったお陰で、私は、復帰後わずか1週間程で仕事のリズムを取り戻すことができたのです。

2-04

「育児休業が私に経験させてくれたこと」

高谷彰さん

- ①公務員
- ②1,000～4,999人
- ③30代前半
- ④2か月間

● 休業中のことを考えてできる限り仕事を進めたからこそ、

すっきりとした気持ちで育休に入れる

一旦、取得すると決まったら、休業中のことも考え、できる仕事は全て済ませておきたいと思いました。もちろん限度はあります。ですが、そうした気持ちで仕事に当たってこそ、助けてくださる周囲の方々に素直にお願いできるのだと思います。

私は、ある報告書の作成に携わっていました。その完成まで見届けることはできませんでしたが、方向性が決まるまでのプロセスはやり遂げたという想いを持つことができ、すっきりとした気持ちで休業に入ることができました。

2-05

「自分にとって大切なこと」

匿名

- ①公務員
- ③20代後半
- ④2か月間

● **ゴールデンウィークとつなげることで仕事の調整も付けやすく**
 短時間勤務等の制度が進んでいることもあり、上司や職場の理解は得られていたと思います。
 ゴールデンウィークを含めた連続 3 週間という短期の休みでしたので、仕事の調整も付け易く、障害となる様な事はありませんでした。

● **人事面談のたびに子供が生まれると取得したいと伝えつづけた**
 次に勤務先とのやりとりですが、そもそも妊娠が判明する遥か以前より、人事面談において毎回欠かさず「子供が生まれると取得したい」と伝え、男性も可能と確認してきました。また現在の所属部署の上司にも、面談の度に話題に出し、様々な準備をお願いしてきました。

● **育児休業を受け入れやすいマネジメント体制の整備が必要**
 「男性の育児休業取得が難しい」ということばかりが目されるが、働く女性が産前産後休暇・育児休業を取得する場合にも本来同じ問題があるはずである。使用者側における従業員が抜けることの影響も、休業者側におけるキャリアへの影響や復帰時の不安なども男女を問わないものである。出産・育児により職場に何らかの影響があることは本来当たり前ではあるが、現実には従業員が抜けた穴を埋めることは職場にとって大変であることから、個人ではなくチームで仕事をするようなマネジメント体制をなるべく整えるべきである。

● **両親には、育休取得についてよく説明することが鍵**
 私の親の場合、母はある程度理解してくれましたが、父が一番反対しました。父にとつての初孫を、男である私が子育てできるわけがなく、死んだらどうするとも言われました。無理ありません。育休は制度的に交代が可能で、私が子育てしてダメなら妻と交代するという条件で渋々了承を取りつけました。

両親への説明は、子育て中様々な面で手助けしてもらおうことを考えると大切です。男性で育休を長期で取得されたい方は、よく説明することが必要だと思います。

娘が生まれた後 1 ヶ月間は、妻の実家に泊まり込み、義理の母から実地で指導を受けながら子育てを始めました。赤ちゃんの抱き方一つわからない私には貴重な経験でした。

● **父親の代わりはいないが、仕事場では代わりがきくんだと割り切って育休を取得**
 最初の子の時、妻は「当然、取るんでしょ」と、育児休業制度があるのに、それを利用しないなんてことは想像もしていなかった様子で、そのつもりで出産と出産後の計画をたてていた。「これって、絶対取らなきゃいけないのか」と自問した。「絶対か?と問われれば、特に、そういうわけでは」という言葉をぐっとのみこんで、決意した。妻との約束もあり、それにお腹にいるころから、話しかけてきた子どもの、せめて生まれたばかりの頃ぐらいは、世話をしたいという思いがあった。子どもに父親の代わりはいないが、仕事場ではいくらでも代わりがきくんだ、と割り切った。

2-08
 「育児体験記」
 三石真裕さん
 ①会社員
 ③30代前半
 ④3週間

1-07
 「人生の貴重なひととき」
 小林武さん
 ①会社員（金融）
 ②100～299人
 ③30代後半
 ④10か月間

1-14
 「やっぱりハードルは高い?」
 ～育休を体験して～
 田中雄造さん
 ①公務員
 ②1,000～4,999人
 ③30代前半
 ④7か月間

1-16
 「新米パパの手探り子育て」
 西迫博さん
 ①会社員（人材派遣業）
 ②1,000～4,999人
 ③30代後半
 ④1年6か月間

4-27
 「男だって 育休くらいは」
 吉田昌哉さん
 ①団体職員（非営利団体含む）
 ②0～99人
 ③30代後半
 ④3か月間



3 育児で深める絆

育休を取ったことで、共有できた妻の気持ち。子育てをすることは、家族の絆が深まるとともに、職場や地域の人とのつながりを強めることにも

先輩育休
パパから

- 新しい家族を迎えるときに、夫婦で将来についてじっくりと話し合うことができた
- 妻の気持ちが理解でき、妻にも一人で過ごす時間が必要であること、妻の話を聞くことが大切だと認識。また、妻にも好きな仕事をして欲しいと思うように
- 夫婦で協力して育児をすることで、お互いに余裕が生まれた
さらに、時間と心に余裕ができたことで子どもを誉めることが多くなり、子ども同士も誉めあうように
- 子どもがパパっ子に
- 「ママ友」や「パパ友」ができたり、地域や子どもの友達とのつながりができた
また、子どもの話の中の登場人物がわかるようになった
- 職場とのつながりを再認識できた

- 育休は終わっても、息子との絆や妻との信頼関係は大きな財産に
復帰初日、久しぶりのスーツに着替え「今日からパパも仕事だよ。」と宣言した時には大いに息子に泣かれてしまったが、これだけパパ好きになったというのは育休の成果だろう。育休生活は終わったが、息子との絆や妻と深めた信頼関係は終ることなく私の大きな財産となるはずである。

最後に、私の育休の話になると「素敵なお主人。」「格好良いパパですね。」と妻は周囲から羨ましがられたらしい。まだ少ない男性の育児休業を後押ししてくれた妻と理解を示してくれた職場や両親、素晴らしい生活を与えてくれた息子に改めて感謝したい。そしてやはり「格好良いパパ」がもっと増えて欲しいし、男女を問わず育児に専念する者がもっと評価される社会になって欲しいと切に願っている。

- 育児の大変さを知り、妻の時間を大切にしたいと思うように
私は仕事を言い訳に育児から逃げていたのだと反省する事が出来ました。妻には一人で過ごす時間を大切にしたいと考えられる様になったのも、この経験があったからだと思います。仕事復帰後は、早く帰宅し、子供と出来るだけ会話をし、妻の手伝いも心掛けています。

- 妻と一緒に家事や育児をすることで時間と気持ちに余裕が生まれ、子どもたちを誉めることが多くなった
こうしてスタートした育休。この5ヵ月半は私たち家族にとって夫婦、親子、兄弟姉妹の絆をこれまで以上に深める貴重な機会になったように思う。妻と協力し合って育児家事をすることで時間と気持ちの余裕が生まれ、子どもたちに対して叱るよりも誉めることが多くなった。そして親のそうした変化は子どもたちにも伝染。子ども同士もお互いを誉めることが増えてきた。

- 3-01
「格好良いパパ」になって」
荒井清生さん
①公務員
②1,000～4,999人
③30代前半
④6か月間

- 3-02
「家族」
岩間昌生さん
①動物園飼育係
③30代前半
④1か月間

- 3-06
「勇気を持って一歩を」
桐野吉弘さん
①会社員
②1,000～4,999人
③30代後半
④6か月間